京都大学教育研究振興財団助成事業
成　果　報　告　書

2023 年　8月　14日

会 長　藤　　洋 作　様

所属部局・研究科　文学研究科

職 名・学 年　　研究員

氏　　名　　坂田　千文

助成の種類	令和５年度　・　国際研究集会発表助成		
研究集会名	第9回ジョイントアクションミーティング		
発表形式	☐ 招待　・　☑ 口頭　・　☐ ポスター　・　☐ その他(		
発表題目	(和文)共同探索における共同記憶効果の自発的な生起 (英文) Spontaneous Emergence of the Joint Memory Effect in Visual Search		
開催場所	ハンガリー・ブダペスト・中央ヨーロッパ大学		
渡航期間	2023年　7月　8日　～　2023年　7月　14日		
成果の概要	**タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版１枚程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料　☑ 無　☐ 有(　　)**		
会計報告	交付を受けた助成金額	350,000 円	
	使用した助成金額	350,000 円	
	返納すべき助成金額	0 円	
	助成金の使途内訳 (差し支えなければ要した経費総額をご記入ください)	費目	金額 (円)
		航空運賃	304,920
		宿泊費	29,775
		滞在費(or日当)	
		学会参加費	15,305
		その他	
		以上に助成金を充当	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 学会の開催時期が早かったのですが、助成金採否の開示後すぐに助成金を振り込んでいただいたき、渡航手続きを円滑に行うことができました。大変助かりました。ありがとうございました。		

成果の概要/坂田千文

１．国際学会について

第 9 回ジョイントアクションミーティングは、ハンガリー・ブダペストにて 7 月 10 日～12 日の 3 日間、開催された。これまでジョイントアクションミーティングは 2 年に一度、ヨーロッパの都市で開催されてきた。ジョイントアクション（共同行為）というトピックに関する研究を行う者が各国から集まり，研究発表および議論することを目的としている。

共同行為は、他者とスムーズに言葉をやり取りして会話を進めることや、他者と動作を協調させる必要がある握手、大きな荷物の運搬、さらには多人数が共同する必要があるオーケストラの演奏など、他者と一緒に何かをするときに調整されるあらゆる行為を含む。共同行為は私たちの日常生活で頻繁に行われているが、その認知的・身体的メカニズムについては未だ不明な点が多い。共同行為はどのようにして可能になるのか、一人の行為とどのように異なるのか、どのように発達するのか、また人間と共同するロボットに実装すべき要素は何かなどについても研究がなされている。そのため、学会のセッションは、協力、音楽、言語、神経科学的メカニズム、ヒューマンロボットインタラクションなどと多岐にわたり、それぞれの研究は、心理学、神経科学、ロボット工学、哲学などの多様な分野を横断している。

この学会には、院生やポスドクなどの若手研究者の出席者が多く、気軽に交流ができる機会が多いという特色と、共同行為という特定の研究トピックに関して分野横断的な議論がなされるという特色がある。新型コロナ感染症の蔓延で開催が中止になって以降、今回、再び開催された。比較的小規模の会議であり、今年は 57 件の口頭発表と 66 件のポスター発表が行われた。この学会では、複数の部屋で異なる口頭発表が同時に行われるのではなく、ひとつの会場で 1 件ずつ行われる。そのため、参加者全員が口頭発表を聴くことができ、ディスカッションに参加することができる。さらに毎日のコーヒーブレイクに加えて 1 日目と 2 日目の夕方にはレセプションがあり、交流を行う機会が頻繁にある。その前後でお互いに口頭発表やポスター発表で研究内容を聴き合っている場合が多いため、積極的に交流することができる。

２．参加の成果

近年の先行研究で、一見、協力をしていない二人が、隣り合って何等かの作業をするとき、一人で作業するときとは違った様々な認知的変化が二人の間で生じ、お互いの行為が調整されることが分かってきている。この認知的変化について、これまで報告者は記憶に着目して研究を行ってきた。本学会では、意図的に記憶しようとせずに形成される記憶、すなわち偶発記憶を検討した内容を発表した。さらに、共同行為の先行研究ではあまり検討されていなかった、気づかないうちに生じる学習である潜在学習についても同時に検討した内容を発表した。質疑応答では、潜在学習について深く掘り下げるような質問をいただくことができ、今後も研究を展開していく励みとなった。

今回、初めて国際学会において口頭発表を行った。口頭発表を初めて経験することで、ポスター発表に比べて様々な人に自身の研究を知ってもらうことができ、レセプションでは自分の発表内容と関連する研究を行う研究者から声をかけてもらい、様々な人と意見交換することができた。特に、自分と同様に記憶について研究されている方やロボットと記憶課題を行う研究をされている方と話すことができたのは、自身の考えを深めることにつながった。また、記憶や学習とは異なり、他者による創造的思考への影響について研究されている方や楽器演奏などで生じる一体感や行為の主体感について研究をされている方のお話は、非常に興味深く、新たに研究興味が刺激された。さらに、自分の論文を過去に査読していただいた研究者に声をかけてもらうことができ、その後の研究について議論することができた。新型コロナ感染症の蔓延以降、対面で国際学会に参加できたことは非常に有益で、オンラインとは違いレセプションやコーヒーブレイクなどの余剰の時間があるからこそ、お互いが発表した研究内容以外の研究についても情報交換が進み、大変充実した学会期間を過ごすことができた。

図. 左が口頭発表、右がレセプションの様子

３．謝辞

今回の国際学会への参加を助成いただいた京都大学教育研究振興財団に感謝申し上げます。助成いただいたことで、本概要に報告させていただいたように充実した多くの情報交換を経験することができました。研究をさらに発展させるために今後もまい進してまいります。